

主題：
ヨハネの繕う務め

メッセージ 15

イエスの証しの八つの面の啓示と経験 (1)

聖書：啓1:1-2, 9-20. 7:9-17

- I. イエスの証しは七つの金の燭台です。すなわち、性質において金であり（神聖であり）、暗やみの中で輝いており、互いに同一です——啓1:1-2, 9-20：
- A. 金の燭台は三一の神を象徴しています。すなわち、実質としての父は子の中に具体化されており、具体化としての子はその霊を通して表現され、その霊は諸召会を通して完全に実際化され、表現され、そして諸召会はイエスの証しです——出25:31-40. ゼカリヤ4:2-10. 啓1:10-12。
- B. 神聖な思想において、実は金の燭台は、生きた、生長する木であり、蓴とアーモンドの花があります。こういうわけで、燭台が描写しているのは、キリストにおいて具体化された三一の神であり、それは生きている、復活の、金の木です。すなわち、わたしたちの中で、わたしたちと共に、わたしたちによって、わたしたちから、生長し、枝を出し、芽を出し、開花させ、光の実を生み出します。この実は、性質において善であり、手続きにおいて義であり、表現において真実です。それは、神が表現されて、わたしたちの日常の歩みの中で実際となるためです——出25:31-35. エペソ5:8-9。
- C. イエスの団体の表現である（使徒9:4-5. I コリント12:12）イエスの証しとしての金の燭台を経験するために、わたしたちはイエスの霊で満たされなければなりません（使徒16:7）。それは、兄弟であり、イエスにある患難と王国と忍耐とに共にあずかっている者として（啓1:9-10）、イエスの焼き印を帯びるために（ガラテヤ6:17）、絶えず主イエスの御名を呼び求めることによります（I コリント12:13. ローマ10:12-13. 哀3:55-56）。
- D. 金の打ち物作りの台を造ることは、信者たちがキリストの苦難にあずかることを表徴します。わたしたちの環境の中で起こるあらゆることは、打ち物作りの燭台を生み出すためです——出25:31. コロサイ1:24：
1. わたしたちが神を知ることによって、その霊の内側の働きと外側の環境に服すなら、あらゆる環境はわたしたちが神を知るための機会となります——ホセア6:1-3. ペリピ3:10前半. エペソ6:20. 創41:42。
 2. もし人が生涯神を知らなければ、その人は全生涯を無駄にしたのです。どうか主がわたしたちに環境における彼の取り扱いを進んで受け入れさせてくださり、わたしたちがさらに彼を知ることができますように——II コリント4:16-18. 12:7-9. 参照、イザヤ7:14-15. II コリント5:14-15。
 3. 問題の核心は、人が困難や試みのただ中で大きな光としての主に出会うかどうか

です。苦難は、そうしなければわたしたちが理解できない事を、わたしたちに理解させることができます——1:8-9. 参照、エペソ1:17. ルカ1:78-79。

- E. 金の燭台の輝きによって人々は、彼らのただ中を歩く人の子としての、栄光のキリストのビジョンを見ます。諸召会のただ中にいる主が、永遠にわたって生きている方であることを知ることによって、わたしたちは絶えず霊の中で彼の臨在を確信することができます。彼はいつも生きていて、わたしたちのためにとりなしています。彼は今やわたしたちのために、神の御顔の前に現れます。彼は決して誤ることがなく、またわたしたちを捨てません——啓1:12-18. 2:1. IIテモテ4:22. ヘブル7:25. 9:24. 民6:22-27. 申31:6。
- F. 七つの金の燭台の七つのともし火の輝き、主イエスが火の炎のような七つの目をもって彼らのただ中を歩くこと、彼の足が輝く青銅のようであること、彼の御顔の輝きが太陽のようであることが示しているのは、わたしたちの日常生活と召会生活の中で、わたしたちが日々、主のさらに多くの輝きを必要としていることであり、それはさらに多く彼が牧養するためです。すなわち、彼が救い、回復し、復興し、神化するためです——啓1:14後半-15前半, 16後半. 4:5. 5:6. ルカ1:78-79. IIコリント4:6-7. マラキ4:2. 箴4:18. 詩第22篇, タイトル. 80:1, 3, 7, 14-19 :
1. 光は神の言の中にありますが、それは聖書の書かれた言葉ではなく、その霊が内側からわたしたちに語られる言葉であり、聖書の言葉をわたしたちに新しく啓示します——啓2:7前半. 詩119:105, 130. ヨハネ6:63. エペソ5:26-27. 雅8:13-14. イザヤ66:2, 5。
 2. 照らすことは神のあわれみにかかっています。神が来て、ご自身のあわれみを示すときはいつでも、彼の御顔の光、彼の現れはわたしたちのビジョンであり、彼の臨在はわたしたちの益です——ローマ9:15. 使徒9:3-4. イザヤ50:10-11. 民6:25-26。
 3. わたしたちは照らされるために、主の照らしを求め、主の照らしを受け入れ、固く決意して単一になって、すべての願いをもって主だけを追い求めなければなりません——詩139:23-24. ペリピ2:12-16. 歴代下12:14. 16:12. 34:1-3. 詩27:8. 73:25. ルカ11:33-36。
 4. わたしたちは照らされるために、自分自身を主に対して開き、わたしたちの心を主に向け、何も保留したり、とどめたりせずに、自分自身を主の御前に置かなければなりません。自分自身を主に対して閉ざす人は、もっぱら他の人を裁き、批判します——IIコリント3:16. 箴20:27. マタイ7:1-5. ルカ6:36-37, 41-42。
 5. わたしたちは照らされるために、自分自身を停止しなければなりません。これが意味することは、わたしたちの見解、わたしたちの物事の見方、わたしたちの感覚、わたしたちの考え、わたしたちの意見を停止することです。完全に停止している人が主の御前にやって来るとき、彼は非常に単一になり単純になって、主の言葉を受け入れることができます——10:38-42. ヨハネ11:21-28. イザヤ40:31. マタイ5:3. ルカ18:15-17. イザヤ66:1-2。
 6. わたしたちは照らされるために、わたしたちの内側で語るその霊の光と争ってはなりませんし、あるいは外側で語る霊の奉仕者の光と争ってはなりません——使

徒22:10. 雅5:4-6. IIコリント10:3-5. 11:2-3. 民16:1-7, 33-39. 17:1-8. 参照、出33:11, 14。

7. わたしたちは照らされるために、絶えず光の中で生きなければなりません——イザヤ2:5. Iヨハネ1:7. ヘブル9:14. 10:22. マタイ5:3, 8, 14. 詩119:105. 啓1:20. 詩36:8-9。

II. イエスの証しは、宮の中で神に仕えている大群衆、神の贖われた者たち全体です。彼らは天に携え上げられて、今日キリストの中で享受することができる、天上にある霊のものであるあらゆる祝福をもって神の顧みと小羊の牧養を享受する大群衆です——啓7:9-17. エペソ1:3. ガラテヤ3:14. 創12:2. 参照、啓21:3-4. 22:3-5. イザヤ49:10:

A. 大群衆は、あらゆる国民と、すべての部族、民族、言語の中から、小羊の血をもって買い取られ、召会の構成要素となった人たちから成っています——啓7:9前半. 5:9. ローマ11:25. 使徒15:14, 19. Iコリント6:19-20。

B. 「これらは大きな患難から出て来た人たちであって、彼らの衣服を小羊の血で洗い、白くしたのである」——啓7:14:

1. この大患難は、各時代にわたって、神の贖われた民によって経験された患難、迫害、苦難に言及しています——ヨハネ16:33。
2. 小羊の血はわたしたちに敵対する悪魔のすべての訴えに応じ、悪魔に対する勝利を与えます (啓12:11)。わたしたちのすべての罪と汚れを清める一つの開かれた源泉としての贖うキリストのゆえに (ゼカリヤ13:1. ヨハネ19:34)、わたしたちは洪水の下に飛び込み、わたしたちの罪の汚れをすべて失い (英文詩歌1006番, 1節)、起き上がって、神ご自身の光の中を歩くことができます。この世と罪に勝ち、新しくされた心と白い衣をもって、キリストは内側で御座に着きます (英文詩歌1010番, 3節)。
3. わたしたちの衣を洗うことは、小羊の血の洗いを通して、わたしたちの行ないを清くすることです。これによって、わたしたちは命の木を享受し、神の永遠の祝福の領域としての命の都の中へと入る権利を与えられます——Iヨハネ1:7. 啓2:14。

C. 大群衆はしゅろの枝を手にして、御座の前、小羊の前に立っています——7:9後半:

1. しゅろの枝は、聖徒たちが主のために受けてきた患難に対する彼らの勝利を表徴します。それはまた、水が注がれて満足したことのしるしでもあります——14節. 参照、ヨハネ12:13. 出15:27)。
2. 神の宮としての三一の神の中で、わたしたちは昼も夜も彼に仕えて、彼を仮庵の祭りとして享受し、しゅろの木のように栄えます——啓7:15前半. 3:12. レビ23:40. ネヘミヤ8:15. 詩92:12-13. ヨハネ7:2, 37-38. ローマ1:9. コロサイ2:19。
3. 今日、時間の中でのわたしたちの奉仕は、永遠における奉仕のための準備です。時間における神の唯一の目標は、日々、ご自身をわたしたちの中へと分与することです。神がわたしたちの中へと入り、またわたしたちから出て来るとき、それが奉仕です——マタイ25:19-23. ヨハネ7:37-39。

D. わたしたちはもはや飢えたり、渴いたりしない——啓7:16前半:

1. 飢え、渇くことは、満ち足りることのない望みを持つことです。キリストは、彼の中へと信じる者はだれでも満ち足りようになり、満ち足りた命として彼を受け入れると約束しています——ヨハネ6:35。
 2. わたしたちの霊の中で霊なる神と接触することは、生ける水を飲むことであり、生ける水を飲むことは真の礼拝を神にささげることです——4:13-14, 23-24。
- E. 打つ太陽と厳しい暑さがわたしたちを討つことはありません——啓7:16後半：
1. 御座に座している小羊・神はわたしたちの上に幕屋を張り、ご自身をもってわたしたちを覆うでしょう——15節後半. II コリント12:9。
 2. 神のおおいの下にある一種類の命があります。それは神の中に隠れている命です——詩36:7-9. エペソ6:17. 詩91:1, 17:8, 57:1. ルツ2:12。
 3. エホバであり、また人でもあるキリストは、神の民を供給し、顧み、覆う王です。彼は支配する王であり、また風を避ける避け所、暴風を避けるおおいのような、乾いた所にある水の流れのような、荒廃した地にある大きな岩の影のような人もあります——イザヤ32:1-2。
- F. 御座の中央にいる小羊はわたしたちを牧養し、命の水の泉へと導きます——啓7:17前半：
1. 牧養には養うことも含まれています。キリストの牧養の下で、「わたしには欠けるものはありません」——詩23:1。
 2. わたしたちは決して自分自身を改善することができず、常にわたしたちを養う牧者を必要とします——2-6節. 啓22:1。
- G. 神はわたしたちの目から、涙をことごとくぬぐい取ります——7:17後半：
1. この時代に涙は避けられませんが、わたしたちの涙は神の皮袋に入れられ、彼の書に記録されています——ヘブル5:7. 使徒20:19, 31. 詩56:8. 参照、3:16。
 2. 小羊が命の水をわたしたちに供給し、わたしたちを満足させるので、涙の泉はぬぐい取られます——エレミヤ9:1, 2:13. 参照、15:16. 哀3:21-25, 55-56。
 3. 悲しみの日々と悲しい事が長く続かないことを神に感謝します。この世は過ぎ去りますが、わたしたちは幸いにも、永遠の命の総合計、新エルサレムになるまで、流れる三一の神を飲みます——ヨハネ4:14後半。